

教職の魅力創造プロジェクトに参加して

原田 朋奈(山形大学地域教育文化学部児童教育コース 3年)

教職の魅力創造プロジェクトでは、3つの事業が展開されており、私は2つの事業に関わらせていただきました。以下にそれぞれの感想を記したいと思います。

1. 「小学校教員体験セミナー」について

「小学校教員体験セミナー」では、教職に興味のある高校生が小学校を訪問し、教師の視点から授業を見たり、休み時間には多くの児童と関わることを経験したりすることができます。大学生は高校生のサポートとして携わりました。高校生にとっては、教師の視点から授業を見ることがないので、とても新鮮だったと話していました。高校生と話をして特に印象に残っていることとしては、教員になることを迷っていたが、今回の体験を通して、教員を目指そうと決めたという思いを聞くことができたことです。自分が小学生だったころの教員の印象と、高校生になってから見た小学校教員の印象は違ったようです。教師の視点から授業を見ると、授業の工夫や、教師と児童の関わりに気づくことができたそうです。また、はじめは緊張気味で関わっていた高校生も、最後の方は打ち解けたように自分から小学生に話しかけている高校生の姿が見られました。この経験を通して、教員という仕事に魅力を持つ人が増えてほしいと思います。来年度も、ぜひ多くの高校生に今後も参加してもらいたいと思いました。

2. 「学びのフォーラム」について

学びのフォーラムは、高校生から社会人まで様々な人が参加し、「できる」「遊ぶ」「考える」とは何かについて話し合いました。毎年同じテキストを使用していますが、グループで話し合うと、興味を持ったところが様々で、どのグループも違うところに目を向けて話しあっているのが面白いところです。また、見ているところは同じでも、考え方の違いに気づかされることにも驚きました。「自分の経験してきたことに似てる」という考えもあれば、「別の経験でも同じようなことがいえる」という考えもあり、これまでの経験と照らし合わせると、複数の受け取り方ができるというもおもしろさです。高校生、大学生、社会人の立場から考えると、見え方が異なり、「学び」についての捉え方が違ってくると知りました。また、高校生にとっては、現職の教員と話せる機会ということもあり、実際の学校の様子や、教員という仕事の魅力についても話を聞くことができる良い機会になっていたと思います。高校生にも教員の魅力を伝える良い機会になっていたと思いました。学びのフォーラムでの交流が教職の魅力を伝える場になっていると感じました。